

長崎県看護協会 会報

発行所 公益社団法人 長崎県看護協会
〒854-0072 長崎県諫早市永昌町23番6号
TEL(0957)49-8050(代) FAX(0957)49-8056
発行責任者 日野出悦子
印刷 株式会社インテックス



Nagasaki Nursing Association

2024年 年頭のごあいさつ 看護協会 会長/副会長/専務理事/	2	災害支援ナース交流会を開催しました!!	6
2024年 今年の抱負インタビュー ～年女年男の方々に聞きました～	3	「2023看護への道フェア」を開催しました!!	7
研修システム「manaable (マナブル)」導入について	3	ICT等の活用による看護業務の効率化を推進	8～9
長崎県看護協会在宅支援事業部 インタビュー やってみたいけど気になる訪問看護師	4～5	地区支部だより	10～11
		病院紹介 青洲会病院	12



青洲会病院

病院理念

医療人たる使命を自覚し、
一視同仁・親切丁寧をモットーとする



今年もよろしく お願いいたします



新年あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
また、日頃より看護協会活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年は、会員の皆様には、沢山のご心配をおかけ致しました。
令和6年は辰年。辰は十二支の中でも最も縁起の良い干支です。
医療、保健、福祉、介護の現場で働く私たち看護職にとって、辰にあやかり、上に登っていける良い年になりますようお願いと併に、私は、皆様のお力を得ながら、今ある課題を解決できるよう、尽力してまいりたいと思います。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

会長 日野出 悦子



年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
看護のより良い未来を創造していくために、看護職の課題や会員の皆様の声を大切なものとして受け止め、看護協会の事業を推進し、その発展に尽力して参りますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

副会長 木下 日出美



新年あけましておめでとうございます。昨年7月に副会長を拝命し半年が経ちました。現在2足のわらじで広報・県の各種委員会等の委員・看護連盟幹事を担当しております。当看護協会は、会員数が年々減少傾向にあります。わたしは、看護職の皆さんが協会員である事に誇りをもち、いきいきと自信をもって看護ができる土壌づくりに尽力したいと思っております。

副会長 井口 恵美子



新年明けましておめでとうございます。
新型コロナウイルスが「5類感染症」に移行され、最近は様々な変化が見えてまいりました。2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築が推進できるよう、看護職の離職防止、県内の就職者が増えるよう努力して参りたいと思っております。皆様のご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

副会長 鶴田 真由美



新年明けましておめでとうございます。
遠い未来のことだと考えていた「2025年問題」がもう目の前に来ており、人々が予想していたより遥かに少子化・超高齢化は深刻な事態となっています。明るい未来が語れる社会づくり、看護をする仲間が生き生きと輝ける職場づくり、今ある課題に真摯に向かい合い、皆様と一緒に考え、行動できる看護協会を目指したい、そのために微力ながら頑張ります。今年もどうぞよろしくお願い致します！

専務理事 余里 康子

2024年

今年の抱負インタビュー

辰年生まれの皆様にご協力いただき、
2024年の抱負を掲載しました!!



長崎川棚医療センター 副看護部長
平山 将

3度目の年男、看護師として14年目になり神経内科病棟の副看護部長として2年目になります。今年は辰のように力強くどこまでも登っていけるよう神経難病看護のエキスパートを目指して頑張りたいと思います。



社会医療法人春回会 井上病院
峯 真子

現在、内科病棟に籍を置きつつ、糖尿病療養指導士の資格を活かして糖尿病外来でも週1回勤務しています。病棟と外来勤務で大変なこともあります。やりがいも感じています。今年も患者様の力になれるよう頑張ります。



長崎県杵岐病院
日高 陽平

2024年は看護師3年目の年になります。「患者さん第一の看護」を心掛けていますが、余裕がなくなると患者さんと接する時間が持てずいます。業務の優先順位を確立し、余裕を持って行動することで、患者さんとの時間を大切にしたいと思います。



地方独立行政法人
長崎みなとメディカルセンター
中島 榛香

2024年は看護師になり3年目を迎えます。勉強の毎日でもまだまだ未熟ですが、患者さんの笑顔に元気をいただいています。2024年は辰年の龍のように力強く飛躍し、チームの一員として頑張りたいと思います。

研修システム

「manaable(マナブル)」導入について



2024年4月から研修申込が変わります!

「manaable(マナブル)」は研修検索・申込・支払・受講・アンケートすべてをオンラインで一元管理できるシステムです。

教育研修事業を中心とするサービスの一層の向上を図るため、現在導入に向け準備を進めております。

詳細は、今後ホームページや協会だよりで、ご案内いたします。



1. 会員登録

2. 申込

3. 受講決定

4. 決裁

5. 受講

マイページにログインすると、申込・受講決定・振込状況などが確認できます。

2回目以降は基本情報の入力不要で簡単に申込できます。

・研修絞込検索
・申込研修確認

・受講決定通知
・受講予定研修一覧

・入金方法 選択
(クレジットカード、コンビニ・銀行振込)
・請求書/領収書のダウンロード

・オンライン研修はID・パスコードの入力不要

やってみたいけど 気になる訪問看護師



① 勤務時間・拘束時間・時間外対応ってどうなってる？

勤務時間: 平日9時から17時まで 土日祝日(休み)
時間外対応: 保険診療以外にオプションとして対応している
(時間外対応時(電話)等は iPad 利用し情報を共有している)

② 基本給・給与？

給与規程に基づき基本給が支給される(等級によって支給: 年1回昇給あり)
基本給の他の手当として、時間外勤務手当、休日勤務手当、24時間待機手当、訪問件数によって業績手当が支給
ボーナスあり(年2回)
退職金は3年以上勤務で支給あり

③ 訪問看護師になるための条件？向き・不向き？

訪問看護師養成講習会受講(eラーニング講義の3日間の実習を含む)
新人でも大歓迎: 新卒(新人)訪問看護師育成プログラムの活用
訪問看護師キャリアラダー活用

向いている方

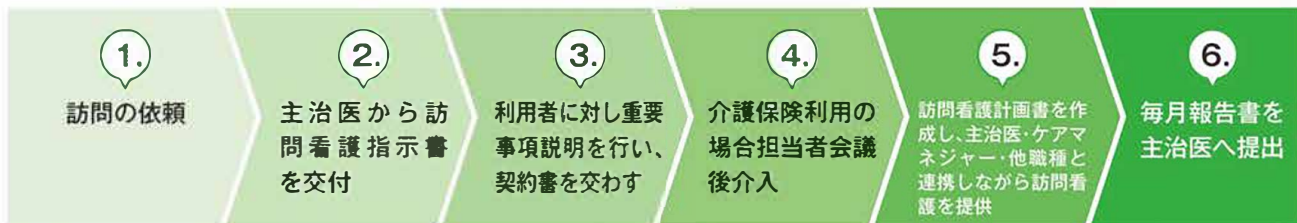
- ・コミュニケーションスキルがある人
- ・一般的な接遇ができる人
- ・体力・精神的に自信がある人
- ・細かい変化に気づいて臨機応変に対応できる人
- ・主体性があって責任感があり報告・連携・相談ができる人

病棟で働いている看護師は自信をもってできるよ

向いていない人

- ・自宅で生活できることを目的としているため
高度医療が勉強したい人
- ・指示がないと行動できない人
- ・公私混同してしまう人
- ・対価を期待しすぎる人

④ 訪問看護の流れ



⑤ 訪問看護師の仕事

1. 地域で暮らす利用者(本人)や家族を対象者として個別の看護を提供します
2. 利用者の生活の場での看護を提供します
3. 多職種(主治医・ケアマネジャー・薬剤師・ヘルパー・地域住民等)と連携し支援します
4. 定期の訪問以外にも電話相談に応じ、必要時は緊急訪問を行います

災害支援ナース交流会を開催しました!!

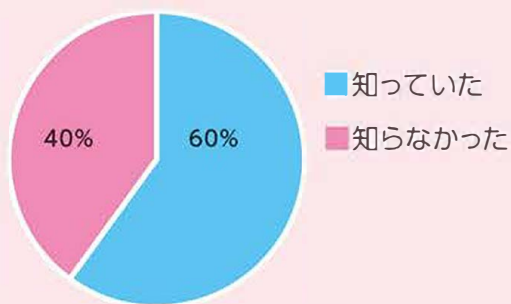
テーマ:新たな災害支援ナース始まる

～これまでの活動とこれから求められること～

2023年9月2日(土) 13:00～16:30に長崎県看護協会 余里康子 専務理事より「新たな災害支援ナースのしくみについて」法改正に至った経緯や内容と今後の研修内容などの説明と長崎県島原病院 金子龍太郎氏より「熊本地震災害時の災害支援ナースとしての活動報告」がありました。その後、参加者全員でディスカッションを行いました。



災害支援ナースの仕組みが変わることについて



災害支援ナースに登録している方へ 今後も災害支援ナースを継続しますか



【自由記載】

- ・指示された施設での活動が本当に実践できるか不安がある
- ・災害支援として出向するが、自分の看護経験に合わない部署での活動で医療ミスに繋がらないのか
- ・登録者にはメールやSNSで確実に情報が伝わるようにしてもらいたい
- ・研修者を増やすには認知症研修と同様に診療報酬加算などに結びつけてもらえるとう助かる
- ・意欲はあっても年々体力の問題がある
- ・後方支援として携わることとはできないのか
- ・特に民間病院では協定をなかなか結ばないところもあると思うのでそこをぜひ協会の力で進めてほしい

今後、災害看護委員会として現在登録されている災害支援ナースの方が移行をスムーズに行えるように活動していきます。



長崎県島原病院 金子龍太郎氏

今後の 研修会予定

災害支援ナース
養成研修

1回目

災害 1月23日 感染 1月24日

2回目

災害 2月 6日 感染 2月 7日

「2023看護への道フェア」を開催しました!!

厚生労働大臣認可 看護師等無料職業紹介所 長崎県ナースセンター

8月2日(水)「2023看護への道フェア」を開催いたしました。新型コロナウイルスやインフルエンザ感染の拡大時期と重なりましたが、マスクの着用や手指消毒等、感染防止対策をしっかりと行った上で開催いたしました。

多くの協力員の皆様にご協力いただき、県内の高校生や中学生、保護者、高等学校進路指導担当教諭の方々等にご参加いただきました。

また、看護養成機関の先生方や看護学生、医療機関の新人看護師はじめ、多くの協力員の皆様、そして協力員の派遣にご理解とご協力をいただきました管理者の皆様に深く感謝申し上げます。

参加者からのアンケートをまとめましたので報告いたします。

参加者合計:146名

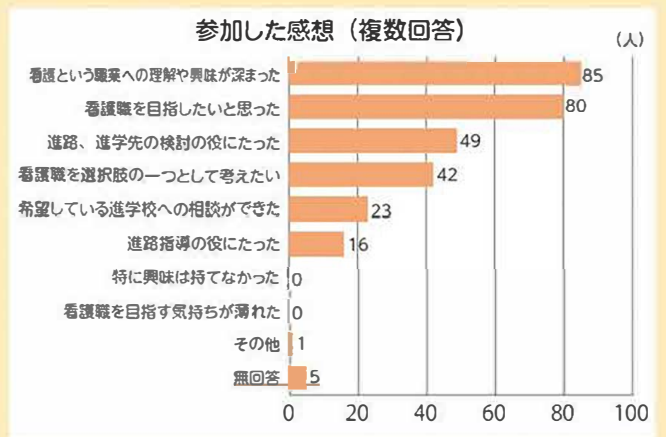
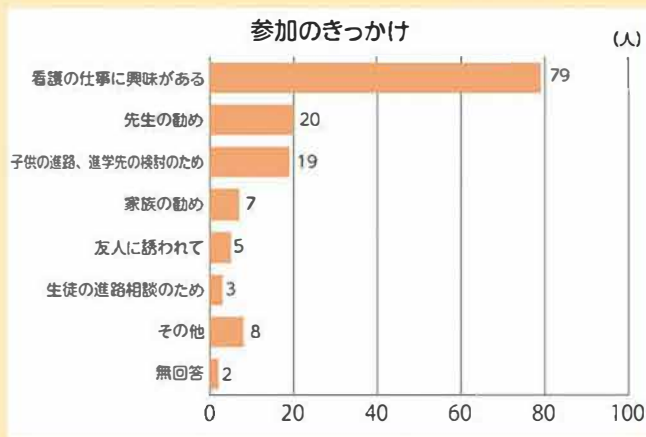
(高校生79名、中学生27名、進路指導担当教諭2名、一般1名、保護者27名、小学生7名、その他3名)

協力員:56名

(感染管理認定看護師2名、救急看護認定看護師1名、災害支援ナース2名、訪問看護師2名、フライトナース1名、新人看護師12名、保健師職能委員2名、助産師職能委員2名、看護師職能委員2名、看護学生4名、協会職員26名)

看護養成機関:8校12名 **総数214名**

<参加者アンケート結果> 回収 143



ICT等の活用による看護業務

会員の皆さんこんにちは

令和5年度もあと数ヶ月となり、人手不足が身に浸みる時期となりました。

人が来なくてタスク・シフト/シェアも進まない、頭を悩ませていませんか。

そんな悩みを解決してくれるヒントになりますよう施設を直撃インタビューしてきましたので、是非ご覧下さい。

第1回目は、社会福祉法人 優輝会 特別養護老人ホーム恵珠苑さんです。

施設の概要

- ・1997年10月6日設立 理念「恵珠苑で良かった」と心から思える法人を目指して
- ・職員数:185名 2019年度ユースエール認定
- ・導入ICT(情報通信技術): インカム、PHS、スマホ、タブレット、眠りセンサー



インタビューに対応いただいた
中島秀司 施設長

1. なぜICTを取り入れようと思われたのか

入所している方が、できるなら病気にならず、入院せず、早めの受診で健やかに過ごしていただくために、業務の効率化と生産性の向上を図ることを目途に進めた。介護と看護が情報共有できるアイテムとして、人にしかできないところ、機械が得意なところを組み合わせる事で解決できるのではないかと考えた。

2. ICTを取り入れる際に、現在の方法を選択された理由

5年前からスタート。法人内で検討し、業務の効率化を図るために、月1回のリーダー会で出た意見を取り上げ、見学に行ったり、業者を呼んで説明を受けたり、デモ機で良さを確かめてから導入した。

3. 実際の現場の変化

インカムの利用により、人の手が必要な時、発信すると、近くの行ける人が返事を返すため、人の重複がなく、入所者をお待たせすることがなくなった。また、職員全員が同じ場所にいなくても日々の出来事や情報がタイムリーに入ってくるため、作業しながら情報共有ができ、引継ぎの時間が短縮された。スマホ対応の見守りカメラは、センサーが鳴った時に、その場でカメラを確認できるため、従来の「アラームが鳴る→かけつける→状況把握の時間・動線の無駄を省くことができた。駆けつけるタイミング

の効率化を推進

副会長 井口 恵美子



の判断・対応・応援依頼も早くなり、入所者・職員にとっての安全で安心な環境になっている。タブレットは、持ち運びが簡単で、利用者の傍で記録ができ時間短縮につながっている。

眠りスキャン（パラマウントベッド）は、これまでは巡視の時の断片的なモニタリングで夜間の状態を判断していたのを 24 時間 365 日見守る事で、経験や感覚の判断に頼らない見える化を実現できている。眠りの有無の判断と呼吸回数の変化は、異常の早期発見につながっている。

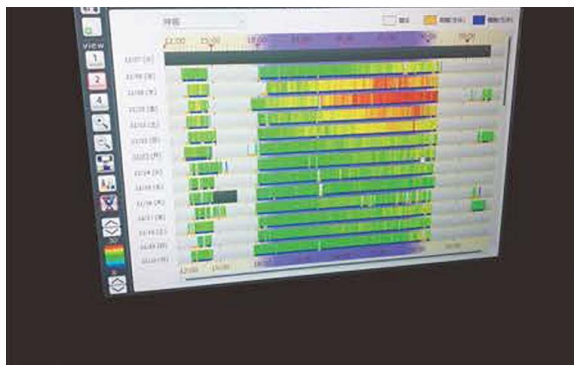


インカム / スマホ見守りカメラ

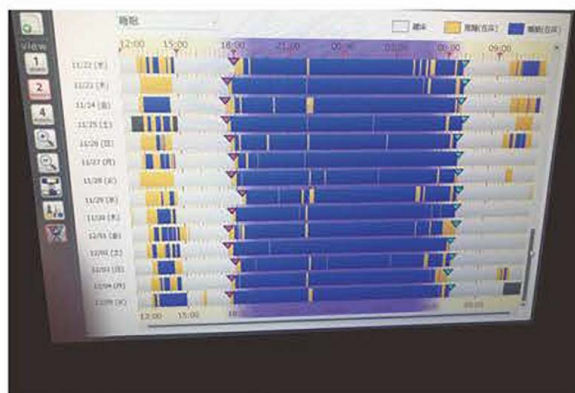


タブレット

眠りスキャン



呼吸回数



眠りの有無

4. 進める上での壁

ある一定数の反対や抵抗はあるが、結果的に良いと思ったら、協力が得られる。

5. 進める際のこれだけは外してはいけない事

無理強いはいしない。一斉にではなく、部分的に入れる。職員の共通理解をえる。そのためには丁寧な説明とデータの蓄積が必要。効果やメリットが想定できることを伝える。まず見学に行ってみる、してみる、ものを見てみる、デモでやってみる、そして決め、成功体験を積んでいく。

恵珠苑のみなさん、お忙しい中ありがとうございました。

地区支部だより



各支部の活動やお知らせをお届けします。

県南支部

支部長 糟谷 操子

新年あけましておめでとうございます。少しずつ以前の日常が戻りつつある中、皆様の生活が充実した1年となりますように願っております。

県南支部では8月26日「タスク・シフト/シェア～看護補助者との連携～」をテーマとした施設代表者交流会、9月30日には「長崎市における医療的ケア児への支援体制の現状と課題」のテーマで看護連携交流会を、それぞれ3年ぶりの対面形式で開催しました。11月8日「2年目看護職員研修」及び11日「リスクマネージャー交流会」ではグループワークにも熱が入りました。12月2日看護研究会は121名の参加者に向けて7演題の発表をオンラインにて開催。同月16日のふれあい看護体験では看護師を目指す高校生73名を対象に3件の話題提供と交流会を実施、看護師志望への一助となることを期待しています。

少しずつではありますが、まちの保健室活動も地域から求められるようになり、地域の方との交流も増えてきました。県南支部へのご協力に感謝申し上げるとともに本年もよろしくお願いたします。



県央支部

支部長 中尾 理恵子

あけましておめでとうございます。前年度の秋よりインフルエンザが増加傾向でしたが現在どうでしょうか？看護職において感染症対策は永遠の課題です。皆様ご自身ご家族の健康に気をつけ明るく元気にお過ごしください。

県央支部の事業の経過を報告致します。2023.10.21「2年目看護師交流会」を実施致しました。アンケート結果は県協会支部のホームページをご参照下さい。11施設36人の参加でした。悩みの共有や自身の課題が明らかになった等の意見が聞かれ元気に帰宅されました。クリニカルラダー1:「標準的な看護が自立して実践できる」に向けてこれから努力されることと思います。

また各地区では「健康福祉まつり」に参加しました。血管年齢、足趾カテスト等が好評でした。並行して「まちの保健室」も各地区で継続しております。夏場は「熱中症対策や対応」「蜂刺され防止や対応」等家庭の医学のような内容も指導しております。また年2回の施設代表者会議においては看護職の生涯学習ガイドラインの周知、クリニカルラダーの更なる推進、タスク・シフト/シェア、看護協会会員増対策等話し合っております。その他の情報も含めて県協会ホームページ県央支部の欄をご参照ください。



2年目看護師交流会



おおむら健康福祉まつり

県北支部

支部長 福田 由美子

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願申し上げます。さて昨年の10/14施設職員交流会では、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、久しぶりに対面で開催することができました。今回は、KYTについてグループワークを行い、職場の中に潜む危険を予測し、その危険に対する策を立て、事故を予防することの大切さについて気づく良い機会となりました。また、施設間の情報共有や会員間の交流を深めることができ、改めて対面で開催する良さを実感することができました。

11/4ふれあい看護体験では、県北地区8校30名の高校生が参加され、新卒・卒後3年目看護師の方々に、高校・看護学生時代～現在までの体験談を発表いただきました。学生は真剣に耳を傾けメモを取り、将来のイメージを固めているようでした。看護技術体験ではバイタル測定、車いす試乗、シーツ交換、手浴のブースをローテーションで回り、四苦八苦しながらも最後まで楽しく取組まれていました。





下五島支部

支部長 岡 知美

新年あけましておめでとうございます。昨年は、つばきマラソンやトライアスロン大会等各種イベントが開催されるようになり、イベント毎に救護にでかけ市民の方とふれあうことができました。9月には消防署主催の救急の日イベントでまちの保健室タイアップ開催をしました。10月の離島就業看護職員研修では、看護キャリア支援センターの協力を得て「有効なポジショニングの実際」として、実演講義をしていただきました。参加人数は、残念ながら少なかったですが、参加された方は、質問がしやすくマンツーマンで指導を受けることができ、日頃のケアで困っていることを解決されたようでした。

現在は、新型コロナウイルス感染症が減少してきたかと思うと、インフルエンザや他の感染症が増加しています。感染対策に終わりはないので、看護職はいつも頑張っています。そんな看護職の仲間を少しでも増やしていけるよう下五島支部一同、看護の魅力を伝えていきたいと思っています。



上五島支部

支部長 中尾 由香

10月21日(土曜日)10時～12時 離島就業看護職員研修、職場におけるハラスメント～職員間にパワハラと患者家族からのペイハラを回避するための対処法～を行いました。WEBではなく久しぶりに講師の弁護士福崎先生をお招きし21名の参加で充実した研修となりました。昨年はまちの保健室も定期的を開催することができました。台風接近で急遽中止となったふれあい看護体験については、その後の日程調整がつかず開催することができず残念でした。2月には離島間配信研修を上五島から緩和について発信する予定です、多数のご参加お待ちしております。

今年も看護協会活動にご協力よろしくお願い致します。



壱岐支部

支部長 鋸崎 くみ子

新年あけましておめでとうございます。

2024年は辰年で、辰(龍)は「活力旺盛によって大きく成長し、整う年」と言われています。今年が皆様にとっても飛躍の年になるといいですね。

さて、10月21日(土)は「壱岐ウルトラマラソン」が、全国から678名集まり、早朝5時から盛大に開催されました。私も救護班として参加させていただきました。参加者の中には、足を引きずりながらも最後まで完走を目指され、あきらめない強い意志に心を打たれる場面がありました。選手やボランティアの皆様、本当にお疲れ様でした。

10月7日は離島就業者研修「アンガーマネジメント」を開催しました。参加者18名で、講師の川崎昌子先生から具体的に分かりやすくお話をいただきました。

「身近な内容で、仕事・家庭でも使えそう」「1人でイライラして消化不良になることがあるが、その都度正しく伝えることが大事、言い方を工夫して爽やかに伝えられるようにしたい」などの意見が聞かれ、有意義な研修となりました。



対馬支部

支部長 武末 浜枝

対馬は朝鮮半島の冷たい風が吹き込み、寒い季節になりました。まちの保健室は6月の晴天に最大のイベント・国境マラソンに参加しました。通常の開催となり韓国人選手を含む多くのランナーが参加しマラソン前の健康チェックと救護班で活躍しました。11月の神話の里ウォーキングでは健康チェックや相談を受けながら親睦を広めました。研修会は、7月は認知症の若浦先生を講師にお招きして、各施設の意見交換を行い、有意義な交流会となりました。参加者68名で興味の深さを感じました。11月は悪天候の中、離島就業研修では、災害看護と感染対策として、DMATの隊員で活躍されている大曲先生を講師にお招きし、様々な災害時の対応を学び、危機感を感じながらの研修でしたが、自施設での課題も見つけ、有意義な内容となりました。32名の参加でした。今後も、まちの保健室は笑顔あふれる健康イベントに協力し、研修会は看護職間の交流を図りながら、知識や技術の向上に努めていく事が出来るような研修会の企画をしていきたいと思っています。



病院 紹介

青洲会病院



当院は昭和59年に平戸島と九州本土を結ぶ平戸大橋のたもと田平町に開設されました。

青洲会病院の名前は、江戸時代に世界で初めて全身麻酔による乳癌手術を成功した外科医華岡青洲に由来します。100床の病床でスタート、療養病棟の増床や回復期リハビリテーション病棟の新設を経て現在一般病棟50床、療養病棟59床、回復期リハビリテーション病棟24床、合計183床を擁しています。

平戸市は自然豊かで綺麗な海に囲まれ、当院からは平戸瀬戸、平戸大橋を一望でき病室、リハビリ室からのロケーションは患者様の安寧の一助と

なっています。

また、職員の中には平戸の自然に興味が高じて、県外から就職したスタッフも少なくなく平戸の自然に癒されながら仕事に励んでいます。当院は開設以来「いつでも、どこでも、誰にでも医療を」合言葉に地域の医療を支え、近隣はもちろん、市内、市外を問わず訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ、場合によっては離島への訪問診療・訪問リハビリも行っています。

今後も患者様が住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう病院理念である「一視同心・親切丁寧」をモットーに地域に根付いた医療・看護を提供していきます。

一般病棟スタッフ



感染認定看護師による感染研修



青洲会エギング大会



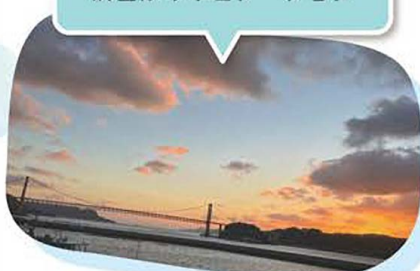
福岡青洲会 DMAT スタッフとの
合同災害研修



平戸市防災訓練参加



病室からのロケーション



病室からのロケーション

